



令和5年11月10日発行

演劇・映画の専門図書館

松竹大谷図書館

ニューズレター

No. 308 (2023年11月)

■【第12弾】クラウドファンディング

「開場100周年、大阪松竹座の歴史を紐解く資料を未来へ。」が成立いたしました

9月5日より、クラウドファンディング「READYFOR」にて、当館へのご支援を募集しておりましたプロジェクト【第12弾】開場100周年、大阪松竹座の歴史を紐解く資料を未来へ。」が、10月25日(水)23時に50日間のスポンサー募集期間が終了しました。おかげさまで193名の方より、目標額250万円を上回る268万7千円のご支援をいただき、今回の第12弾プロジェクトが成立いたしました。

成立を信じて頑張ることができました。また、プロジェクトページや当館のSNSに「いいね!」をして下さった皆様、ご自身のSNSや様々なメディアで広め、そしてチラシの配布にご協力下さった皆様、プロジェクト中に松竹大谷図書館に直接応援に来て下さった皆様、ご支援・ご協力下さいました全ての皆様に、心から感謝申し上げます。

今回のプロジェクトを支えてくださった多くの方から、大阪松竹座での観劇の思い出や、広く大阪の芸能や劇場文化に共感を寄せるコメントもいただきまして、皆さまの、大阪松竹座、そして大阪の芸能への関心の深さを実感いたしました。

本プロジェクトのご支援(支援金)は、戦前の大阪松竹座の興行資料の補修・デジタル化のための資金として使わせていただきます。

今回の当館の活動を支えて下さいました全ての皆様に、心より感謝申し上げます。今後も資料の整理・保存に努め、当館が所蔵する貴重な資料を皆様により活用していただけるよう、職員一同、図書館事業のさらなる充実を目指して努力を重ねて参ります。一層のご支援・ご協力を、何卒お願い申し上げます。



【第12弾】開場100周年、大阪松竹座の歴史を紐解く資料を未来へ。

武藤祥子(松竹大谷図書館)

#本・漫画・写真

107%
 支援総額 2,687,000円
 支援者 196人
 終了日 10/25

今年のプロジェクトは、残り2日の時点でもまだ目標額に到達せず、厳しい状況が続きましたが、そんな中、当館のプロジェクトにご賛同いただき、励ましの応援コメントと共に、温かなご支援をいただきましたことは、私たちスタッフにとって大変心強く、

プロジェクトページ成立画面



(松竹座グラフィック「大正15年4巻4号より」開場当時の大阪松竹座)

▼詳しくはURLまたはQRコードよりプロジェクトページをご覧ください
<https://readyfor.jp/projects/ootanitoshokan12>
 SNS(Facebook, Instagram, X)でも情報発信しております



目次:

【第12弾】クラウドファンディング「開場100周年、大阪松竹座の歴史を紐解く資料を未来へ。」が成立いたしました	1
『鏡獅子』第36回東京国際映画祭ワールドプレミア上映レポート	2
《松竹大谷図書館所蔵 演劇写真検索閲覧システム》を公開しました	3
所蔵資料紹介 - [11]「生誕150年泉鏡花台本」-	3
第100回所蔵資料ミニ展示「映画監督 小津安二郎 生誕120年、没後60年」	4
「中央区まるごとミュージアム2023」11月4日(土)特別開館いたしました	4
新着資料案内	5
新たに資料をご寄贈くださった方々	5
公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い	6
休館のお知らせ	6
松竹大谷図書館 ご来館予約のお願い	6
利用案内	6

■『鏡獅子』第36回東京国際映画祭ワールドプレミア上映レポート

第36回東京国際映画祭

小津安二郎生誕120年記念企画 “SHOULDERS OF GIANTS”

小津安二郎生誕120年特集上映

[長屋紳士録 4Kデジタル修復版/菊五郎の鏡獅子 4Kデジタル修復版]

日時：10/25 [WED] 20:05- / 会場：角川シネマ有楽町

令和4(2022)年に当館が実施したクラウドファンディングのご支援により4Kデジタル修復を行った小津安二郎の『鏡獅子』が、10月25日に、4Kデジタル修復版として初めて映画館のスクリーンで上映されました。本年は、小津安二郎の生誕120年にあたることから、第36回東京国際映画祭では小津安二郎生誕120年特集上映が行われ、その特集の中の一作品として上映されるというお披露目の機会となりました。

当日は、最初に特別映像「SHOULDERS OF GIANTSメッセージムービー(2分)」「ヴィム・ヴェンダース小津を語る(8分)」が流れ、続いてまず今年のカンヌ映画祭で4Kデジタ



ル修復版としてワールドプレミア上映を行った『長屋紳士録』が上映されました。『長屋紳士録』は昭和22[1947]年に撮影された小津監督の戦後第1作で、戦争の傷跡が色濃く残る東京の風景のなか、飯田蝶子や笠智衆ら魅力的なキャストの表情が4Kデジタル修復された鮮明な映像で映し出されました。

『長屋紳士録』が終わると拍手があり、続いていよいよ『鏡獅子』(上映タイトルは『菊五郎の鏡獅子 4Kデジタル修復版』)の上映が始まりました。『鏡獅子』は記録映画であるということや約24分と短いこともあり、これまでもなかなか上映される機会が無かった作品です。当日の映画館はほぼ満席の状態でした。今回は英語字幕版の上映でしたが、字幕を制作して頂いた際に、元のキャプションや字幕に字が被らないように、株式会社IMAGICAエンタテインメントメディアサービスの字幕担当の成田幸司氏に、表示位置を細かく調整していただいたお陰で、大きなスクリーンでも非常に見やすく感じました。

音に関しては劇場で聞いているような奥行を感じる一方で、楽器の種別に音色がクリアに聞こえてきて三味線の糸や撥音な



どの細かい音も非常によく聞こえました。映像については、デジタルスキャンを行った素材のフィルムの状態がかなり悪かったにも関わらず、キズや汚れが修復により無くなった

ことで、映像のなかで六代目尾上菊五郎の動きが浮き彫りにされて、動きに従ってライトを反射する着物や、獅子の毛がきれいに



波打つ様子をはっきりと見えました。いつしか何も考えずにただひたすらに六代目の踊りを眼で追っていました。そして最後に「終 THE END」の字がスクリーンに映ると、場内は一瞬静かになったのちに拍手が鳴り、明かりがついてもなお拍手を続けてくださった観客の皆さんの反応に、4Kデジタル修復版を映画館で上映するという成果を遂げたことを実感しました。

上映終了後には、市山尚三プログラミング・ディレクターの司会により、クリスチャン・ジュヌヌ氏(カンヌ映画祭代表補佐 映画部門ディレクター)とカルロ・シャトリアン氏(ベルリン映画祭 アーティスティック・ディレクター)のお二人によるトークショーが行われました。

フランス人であるジュヌヌ氏は『鏡獅子』について、次のように感想を述べていました「日本人の観客にとっては恐らく、私がサラ・ベルナル(1844-1923)の映像を見ているのと同じような感覚だったのではないかと思います。伝説的名優がスクリーンで息づいているのを観るわけですから。私にとっては、日本人と同じというより好奇心に近い感覚でしたが、もちろん六代目菊五郎は非常に有名ですから、この会場の日本人の観客は深い感銘を受けたように見受けられます。時を超えて大きな感動を与えてくれた映像表現だったのでしょう。」

『鏡獅子』のスクリーンでの上映は、デジタル化にあたってのひとつの目標であり、それも国際的な場での初上映となったことは、スタッフ一同大変嬉しく思っております。そして、今回大きなお披露目の機会を頂いたことで、これをきっかけに公開や活用がさらに進む事を願っております。



■《松竹大谷図書館所蔵 演劇写真検索閲覧システム》を公開しました

当館が2019年に実行したクラウドファンディング【第8弾】では、ご支援により、戦前の歌舞伎プロマイド約12,000枚をデジタル撮影し、アーカイブ化に取り組んでおりましたが、このほど全画像データのうち約5,500枚の書誌データの入力を進めたところで、2023年10月17日に、歌舞伎プロマイドの検索と閲覧ができる《松竹大谷図書館所蔵 演劇写真検索閲覧システム》を公開いたしました。

書誌データの入力については、写真集が出版されていて、写真と出演記録がまとまっている俳優の考証作業を優先的に進めました。それでも全ての写真が掲載されている訳ではないため、出演記録の年代に沿って演劇雑誌に掲載されたグラビアをチェックするなど、地道な作業が続きました。

そして、まだ演目や上演年月が特定できていないなど全てのデータ項目を埋める事が出来ませんでした。この度俳優が特定出来るところからWeb公開をする事にいたしました。情報が不明な部分に関しては、公開後も優良なデジタル・アーカイブを目指し、引き続きデータの検証・考証を続けてまいります。そして、残りの約6,500枚の写真についても、鋭意入力を進めてまいりますので、全データの公開まで少々お待ちください。

当館HPの「デジタル・アーカイブ」のページにもリンクを貼っています。

▼《松竹大谷図書館所蔵 演劇写真検索閲覧システム》はこちら
https://www.dh-jac.net/db/butai-photo/search_sol.php

▼ご利用ガイドはこちら
https://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/pdf/20231017_01.pdf

この閲覧システムのデジタル画像の撮影とシステムの開発及び公開は、松竹大谷図書館と立命館大学アート・リサーチセンターとの間で結ばれた協定に基づき、アート・リサーチセンターが行っています。



■所蔵資料紹介 —[11]「生誕150年泉鏡花台本」—

浪漫と幻想の作家・泉鏡花の作品は、文学のみならず新派をはじめとする演劇、映画とジャンルを超え、現代まで広がり続けています。本年生誕150年を迎えるにあたり、10月から11月にかけて東劇ほか全国の映画館で、坂東玉三郎出演による泉鏡花原作の舞台を「シネマ歌舞伎」として上映していることちなみ、現在上映中の作品の上演台本をご紹介します。

こちらは『日本橋』平成23[2011]年1月三越劇場新派公演の上演台本です。

今回シネマ歌舞伎で上映する舞台の台本と、新派の舞台の台本を読み比べてみても、おもしろいかもかもしれませんね。



平成23年1月三越劇場上演 日本橋

泉鏡花と新派の縁は深く、劇団新派では現在でも『日本橋』のほか『婦系図』、『滝の白糸』など数多くの鏡花作品が、初演以来新派の古典的名作として上演を重ねています。

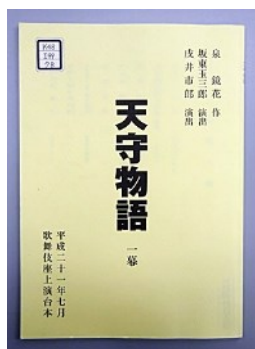
これらの資料は当館閲覧室で閲覧可能ですので、ご希望の方は閲覧席をご予約ください(※前日までの予約制)。当館HPの「資料検索」で検索できます。

<https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/>

なお当館HPのデジタルアーカイブには「新派上演年表(戦後)」データベースが公開されています。泉鏡花の新派作品上演情報も検索できますので、ぜひご利用ください。

劇団新派HPからもご覧いただけます。

https://www.dh-jac.net/db/nenpyo/search_shinpa.php



平成21年7月歌舞伎座上演 天守物語



平成24年12月日生劇場上演 日本橋



令和5年5月平成中村座上演 天守物語

『天守物語』は来月12月、中村七之助主演で歌舞伎座にて上演されることも話題です。写真は、中村七之助が初めて『天守物語』で天守夫人、富姫を演じた令和5[2023]年5月平成中村座姫路城公演の上演台本です。

■第100回所蔵資料ミニ展示「映画監督 小津安二郎 生誕120年、没後60年」

本年は小津安二郎監督（1903年12月12日-1963年12月12日）の生誕120年、没後60年にあたる記念すべき年です。1923年に撮影助手として松竹キネマ蒲田撮影所に入社し、後に演出部に移り1927年に時代劇『懺悔の刃』で監督デビューした小津監督は、全54作の映画のうち戦後の3作を除いた51作品を松竹より発表しています。“小津調”と呼ばれたその映画は世界的に評価が高く、本年の第36回東京国際映画祭で特集上映が組まれるなど、現在も大変人気の高い監督です。

今回は、小津安二郎の映画の美術助手をつとめた荻原重夫旧蔵の、撮影セットの平面図などの美術資料（通常非公開）や、小津の映画の広告が掲載された戦前の映画館プログラムを展示するとともに、かつて映画館のロビーなどで飾られていたロビーカードや小津監督の撮影現場でのスナップ写真、プレスシートやプログラム、台本など計24点の資料を展示しています。

右の写真は、小津安二郎監督の映画の広告が掲載された、浅草帝国館発行の映画館プログラム「帝国館ニュース」です。縦15cmほどの小さな冊子ですが、



帝国館ニュース

その週に封切られる映画や封切間近の映画の情報が詳しく掲載されています。左はNo. 126で、裏表紙に『東京の合唱（コーラス）』（1931年）の宣伝が載っています。右はNo. 139に挟み込まれていた『生れてはみたけれど』（1932年）の宣伝広告です。どちらも宣伝文に「社会諷刺」と入っており、こうした言葉からも当時の小津監督の作風を知ることができるのではないのでしょうか。どちらの資料も展示しております。

そして、右上の写真は、荻原重夫旧蔵のスクラップブックです。なかにはロケハンの風景やセットの写真、美術の参考資料などが貼り込まれています。当館はこのスクラップブックを49冊所蔵しており、その内14冊が小津安二郎作品です。『早春』（1956年）、『東京暮色』（1957年）、『お早よう』（1959年）、『秋日和』（1960年）、『秋刀魚の味』（1962年）のタイトルが背表紙にあり、なかには表紙に題名と「小津組」、そして作品に関連

したイラストがかかれた手作りのタイトルが貼られているものもあります（右写真下参照）。この資料は大型で当館の小さな展示ケースには入らないため展示できませんでしたが、同じく手作りのタイトルが貼られた『彼岸花』（1958年）のファイルを展示しています。荻原重夫旧蔵の美術資料は通常非公開ですので、この機会にご覧ください。



荻原重夫旧蔵スクラップブック

また閲覧用資料として、生誕100周年の際の公式プログラム『小津安二郎映畫讀本 東京そして家族』の新装改訂版や、小津監督の特集が組まれた雑誌『キネマ旬報』4冊を閲覧室内のラックにご用意していますので展示観覧の際はご一読ください。



荻原重夫旧蔵『彼岸花』ファイル

今回で当館の閲覧室での所蔵資料ミニ展示は100回目を迎えることとなりました。第4期歌舞伎座が閉場した際にロビーにあった展示ケースをもらい受け、念願の閲覧室内での展示を始めたのが2010年のことで、第1回は当館の創立者「大谷竹次郎」の展示でした。それから13年を経て、100回目を小津安二郎監督の展示で迎えられたことを嬉しく思っております。小さなケースでの展示ですが、来館された方々に少しでも資料を見ていただけるようがんばりたいと思っております。

今回で当館の閲覧室での所蔵資料ミニ展示は100回目を迎えることとなりました。第4期歌舞伎座が閉場した際にロビーにあった展示ケースをもらい受け、念願の閲覧室内での展示を始めたのが2010年のことで、第1回は当館の創立者「大谷竹次郎」の展示でした。それから13年を経て、100回目を小津安二郎監督の展示で迎えられたことを嬉しく思っております。小さなケースでの展示ですが、来館された方々に少しでも資料を見ていただけるようがんばりたいと思っております。

閲覧室ミニ展示「映画監督 小津安二郎 生誕120年、没後60年」
 展示期間：2023年10/27(金)～12/26(火)/時間：平日10時～17時/休館日：土日祝日、毎月最終木曜日/展示場所：松竹大谷図書館 閲覧室

※現在、展示は予約なしでご覧いただけます。
 松竹大谷図書館 TEL 03-5550-1694(平日：10時より17時)
<https://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>

■「中央区まるごとミュージアム2023」11月4日(土)特別開館いたしました

中央区の文化的な魅力を発見・再確認していただくイベント「中央区まるごとミュージアム2023」の【事前募集イベント】に当館は今年初めて参加し、11月4日（土）に特別開館いたしました。

イベント当日の資料閲覧のご利用は、事前予約制にてお申込を受け付けました。日頃、土日などのお休みにも開館してほしい、というご要望の声もいただいておりますので、サービス向上のためにも良い機会となりました。次号では、当日の様子を詳しくお伝えいたします。

まるごとミュージアムに関してはこちらをご覧ください。

<http://www.marugoto-chuo.jp/>



新着資料案内

(ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いします)

新しく受入れた資料をご案内いたします

◆松竹系10月演劇公演資料◆		○ … 受入済み			
劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『天竺徳兵衛韓嘶』	○	○		
	『文七元結物語』		○		
	『双蝶々曲輪日記 角力場』	○	○	○	○
	『菊』		○		
	『水戸黄門 讃岐漫遊篇』	○	○		
新橋演舞場	『少年たち 闇を突き抜けて』			○	○
日生劇場	『キャメロット』	○		○	
立川ステージガーデン	『三代猿之助四十八撰の内 義経千本桜 忠信篇』	○		○	
草月ホール	『こえがぶ 朗読で楽しむ歌舞伎 雪の夜道』			○	
南座	『祇園小唄』	○		○	○
	『大阪ざらい物語』	○			
松竹座	『星降る夜に出掛けよう』			○	
御園座	『東海道四谷怪談』	○		○	
	『神田祭』				
地方巡業	『君が代 松竹梅』				
	『十三代目市川團十郎白猿襲名披露 口上』			○	
	『歌舞伎十八番の内 毛抜』	○			

博品館劇場プログラム/『朗読劇 幽玄朗読舞SEIMEI 鬼と人と 安達ヶ原より』博品館劇場プログラム/『ミュージカル ターニングポイント』博品館劇場プログラム/英語歌舞伎『弘法印御伝記』早稲田大学大隈記念講堂プログラム/林佑樹の会『新説 雪之丞変化』日本橋劇場プログラム、台本/劇団民藝『破戒』劇団民藝稽古場台本/劇団民藝『善人たち』劇団民藝稽古場台本/ASPイツフオーリーズ『聲の形』サンシャイン劇場プログラム、台本/文学座アトリエの会『アナトミー・オブ・ア・スーサイド』文学座アトリエ台本/『M.クンツェ&S.リーヴァイの世界3rd Season』シアタークリエプログラム/ミュージカル『ラグタイム』日生劇場プログラム/『DREAM BOYS』帝国劇場プログラム/『翔之會』浅草公会堂プログラム、台本/演劇ユニット新派の子『新編 糸桜』日本橋劇場プログラム、台本/『最高のオバハン中島ハルコ』博多座プログラム/『中村勘九郎中村七之助錦秋特別公演2023』地方巡業プログラム/『第333回歌舞伎公演』国立劇場大劇場プログラム/『第225回文楽公演』国立劇場小劇場プログラム

◆映画資料◆『松竹ブロードウェイシネマ ホリデイ・イン』ポスター/『おまえの罪を自白しろ』台本、ポスター、プログラム/『アイドルマスター シャイニーカラーズ 第1章』プログラム

◆映画プログラム◆(順不同)『ドミノ』『アリスとテレスのまぼろし工場』『シアター・キャンプ』『さよなら ほやまん』『イコライザー THE FINAL』『沈黙の艦隊』『アントニオ猪木をさがして』『アナログ』『リバイバル69 伝説のロックフェス』『コカイン・ベア』『コンフィデンシャル: 国際共助捜査』『極限境界線 救出までの18日間』『オペレーション・フォーチュン』『ジョン・ウィック: コンセクエンス』『ミュタント・タートルズ: ミュタント・パニック!』『ゆとりですがなにか インターナショナル』『ミステリと言う勿れ』『グランツーリスモ』『ファンタジア(ディズニー創立100周年)』『シンデレラ(ディズニー創立100周年)』『映画すみっこぐらし ツギハギ工場のふしぎなコ』

◆演劇雑誌◆(順不同)『JPL』No. 90/『あぜくら』2023年10月号/『ほうおう』2023年12月号/『テアトロ』2023年11月号/『ラ・アルプ』2023年11月号/『喝采』2024年1月、1月特別号/『紀尾井だより』2023年7月-8月号、11月-12月号/『劇評』第19号/『大向う』令和5年10月号/『日本照明家協会誌』2023年10月号/『日本舞踊』75巻11月号/『悲劇喜劇』2023年11月号

◆映画雑誌◆(順不同)『FLIX』2023年12月号/『NFAJニューズレター』22号/『NFAJプログラム』No. 49/『SCREEN』2023年12月号/『TVガイド』2023年10/6号、10/13号、10/20号、10/27号/『おとなのデジタルTVナビ』2023年12月号/『キネマ旬報』2023年11月号/『シナリオ』2023年12月号/『シナリオ教室』2023年11月号/『シネ・フロント』403号/『ドラマ』2023年11月号/『ピクトアップ』2023年12月号/『映画テレビ技術』2023年11月号/『黒澤明研究会誌』47号/『日経エンタテインメント!』2023年11月号/『文化通信ジャーナル』2023年11月号

◆他社演劇公演資料(2023年8月-10月)◆(順不同)排気口『時に想像しあった人たち』三鷹市芸術文化センター星のホールプログラム/ヨーロッパ企画『切り裂かないけど攫いはするジャック』本多劇場プログラム/なないろ満月『ハイツブリが飛ぶのを』テアトルBONBONプログラム/タカハ劇団『ヒトラーを画家にする話』東京芸術劇場シアターイーストプログラム/トム・プロジェクトプロデュース『沼の中の淑女たち』赤坂RED/THEATERプログラム/西瓜糖『いちご』下北沢小劇場B1プログラム/ばぶりか『柔らかく揺れる』こまばアゴラ劇場プログラム/劇団S.W.A.T!『S.W.A.T!魔法大戦 デビルVSウィザード』シアタートップスプログラム/KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『アメリカの時計』神奈川芸術劇場大スタジオプログラム/劇団桃唄309『決心いろいろ』RAFTプログラム/名取事務所『ホテル・イミグレーション』シアタートップスプログラム、台本/太陽劇団『金夢島 L'ILE D'OR Kanemu-Jima』東京芸術劇場プレイハウスプログラム/劇団昴ザ・サード・ステージ『イェルマ』Pit昴/糸あやつり人形一糸座『獵師グラフィック』シアタートラムプログラム/秋田雨雀・土方与志記念青年劇場『星をかすめる風』紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYAプログラム/中村京蔵爽涼の會『フェードル』国立劇場小劇場プログラム/劇団民藝『ローズのジレンマ』紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYAプログラム、台本/『チキチキバンバン』博品館劇場プログラム/『シーボルト父子伝 蒼い目のサムライ 新たなる船出』博品館劇場プログラム/『舞台「アキバ冥途戦争」浪速喰い倒れ狂騒曲』

新たに資料をご寄贈くださった方々

(敬称略・順不同/2023年9月まで)

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、シナリオ・センター、林与一、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、株式会社OSK日本歌劇団、国立劇場、明治学院大学図書館、文学座、こまつ座、有限会社合同通信社、樽松大剛、一般社団法人日本民間放送連盟、児童・青少年演劇ジャーナル「げき」編集委員会、帝国劇場、シアタークリエ、株式会社カモミール社テアトロ編集部、協同組合 日本映画撮影監督協会、公益社団法人日本照明家協会、神戸女子大学古典芸能研究センター、キネマ旬報社、国立映画アーカイブ、神奈川県演劇連盟、おとなのデジタルTVナビ編集部、(株)近代映画社、銀座百店会、下野公久、公益社団法人日本劇団協議会、博多座、愛知芸術文化センター、一般社団法人関西常磐津協会、東京都江戸東京博物館、川崎哲男、茅ヶ崎市美術館、株式会社日本舞踊社、東宝株式会社ライツ事業部、丸善雄松堂株式会社、劇団民藝、BS松竹東急、若林さだ吉、特定非営利活動法人 国際人形劇連盟日本センター、公益財団法人日本近代文学館、日本映画テレビプロデューサー協会、劇団青年座、博物館明治村、銀座 博品館劇場

どうもありがとうございました

公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■現在ご支援いただいている方々(了承を得た方のみ掲載)令和5[2023]年10月にご支援いただきました

法人・団体 (50音順・敬称略)

株式会社歌舞伎座
歌舞伎座サービス株式会社
歌舞伎座舞台株式会社
有限会社合同通信社
松竹株式会社
松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター
松竹音楽出版株式会社
松竹芸能株式会社
株式会社松竹サービスネットワーク
松竹ブロードキャスティング株式会社
株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

個人 (50音順・敬称略)

永松宏之
森隆史

どうもありがとうございます

松竹大谷図書館 ご来館予約のお願い

開館日時やご利用方法につきましては、状況の変化にともない変更の可能性がございます。

随時お電話での確認や、当館のHP、Facebookの更新をご確認下さい。ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

当館は感染対策のため、ご来館は「前日までの予約制」とさせて頂いております。

《現在のご利用について》(※2023年5月16日改定)

- 開館時間 10:00～17:00
- ご来館前日(※休館日を除く)までに、お電話でのご予約をお願い致します。
当日のご利用は、閲覧席に空きがある場合のみ承ります。
松竹大谷図書館 03(5550)1694(平日10時～17時)
- 展示はご予約なしでご覧頂けます。状況によっては、入室をお待ち頂く場合がございます。
- ご利用の際はマスクの着用と手指の消毒のご協力をお願い致します。

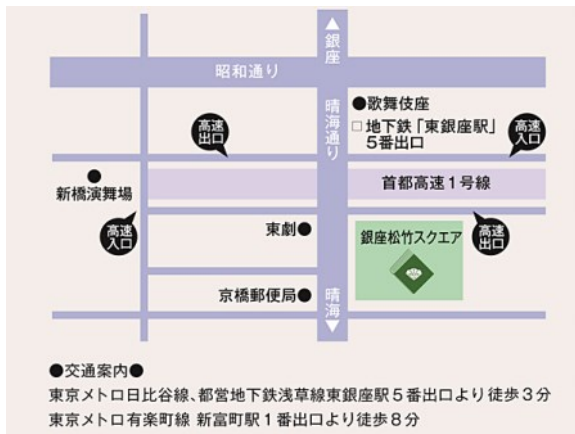
《ご予約について》

- ★10時から17時まで、毎正時より1時間単位でのご予約制になります。
- ★お名前、人数、ご希望日時(○月○日○時より○時まで)、閲覧希望資料名、ご連絡先をお知らせ下さい。
- ★資料は予約優先になりますので、ご利用頂けない場合もございます。

松竹大谷図書館資料検索：<https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/>

詳しいご利用方法はこちら：<https://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/news/220606.html>

令和5年
11月22日(水)
休館のお知らせ



- 利用案内●[開館時間]平日10:00～17:00/[休館日]土曜日、日曜日、祝日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期・夏期整理期間※その他、臨時休館のある場合は1ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します/[閲覧]館内閲覧のみ
[入館料]無料/[コピーサービス] A4 1枚 白黒50円、カラー150円・B4 1枚 白黒100円、カラー300円 量が多い場合は翌開館日渡し、または郵送(送料は申込者負担) 但し、コピー不可の資料もあります
- 資料検索●<https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/>
- 交通案内●東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分/東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

公式HP



公式Facebook



公式Instagram



公式X



編集・発行:公益財団法人 松竹大谷図書館

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア3階

TEL:03-5550-1694

公式HP● <https://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>